

ひがしひろしま 郷土史研究会ニュース

No.604

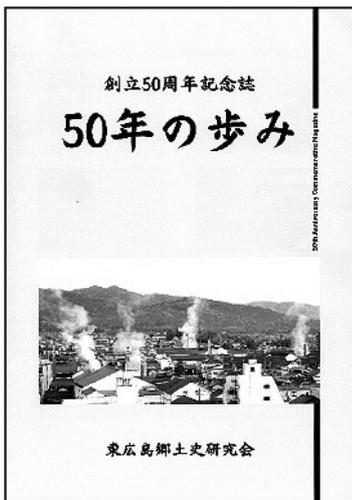
2024年12月

創立50周年記念誌 郷土史ニュース第1号～600号CD付 —50年の歩み— 刊行

國松 宏史

東広島郷土史研究会は、昭和49年（1974）7月25日結成以来、今年度で「50周年」を迎える。この記念すべき周年を迎えるに当たり、昨年6月24日「創立50周年記念事業委員会」を立ち上げた。記念事業は「記念誌編集」と一大イベント「県史協東広島大会」開催である。

その第一弾として9月に「創立50周年記念誌50年の歩み」134ページ400部を刊行した。



特筆すべき事項として、「ひがしひろしま郷土史ニュース」創刊号（昭和47年（1974）8月）～令和6年（2024）8月発行の600号まで収録したCDを裏表紙に付けての刊行である。このCDの基は、10年前の「創立

40周年記念誌」刊行時に、前会長の蔵楽知昭氏が作成したPDFが基である。黎明期を支えた先人から現在まで多くの人たちの専門的な見識や知識に基づいた研究発表の概略が数多く掲載されており東広島市の歴史や史跡・文化などを学

習、研究する貴重な史料となると自負している。また、「古代山陽道」、「江戸時代」、「原爆」、「人名」などを入力すれば該当する項目の記事が一覧できる検索機能も付いた優れたものである。是非、多くのみなさま方に活用していただきたいと思う。

50周年記念誌編集は、過去40年間の活動記録「創立40周年記念誌一歩みと回想」（平成26年3月刊行）に纏められているが、その後10年間の活動を40周年記念誌のダイジェスト版を加え記録した記念誌である。第一編活動の歩み（郷土史展、東広島市の史跡・文化財を見て歩く会、総会、臨地研修、新春登山・新年互例会、各研究グループ、地域研究会、特別事業、表彰、文化財管理、刊行物、広島県郷土史研究協議会大会（県史協）、東広島市郷土史研究協議会（市史協）、コラム）

第二編（歴代役員、例会記録、例会研究発表、会則）である。

【記念誌編集委員会】

【リーダー】今田幸博、【サブ】國松宏史、【委員】赤木達男、蔵楽知昭、船越雄治、大森美寿枝、光田清志、進藤真由美、吉岡眞喜夫、横川知司の10名で構成し、令和5年7月22日～12月5日まで7回の会合を持ち、グループ研究会、地域研究活動、各行事の主幹の人々から活動実績記録を提出してもらい資料集めを行った。

【記念誌編集会議】

メンバーを絞り、今田幸博、國松宏史、赤木達男、船越雄治、大森美寿枝、進藤真由美の6名で構成し、令和6年1月10日以降15回編集会議を開催した。各担当者から提出された資料や記録の誤字脱字、誤記の有無、和暦・西暦・文脈の整合性、資料不足で未記入・空欄になっていた箇所を追記など細部に渡り検討し、歴代会長の顔写真を新たに加え9月下旬刊行となった。

40周年記念誌にない項目は「地域研究会活動」である。平成28年（2016）4月、当時の会長天野浩一郎氏の発案で、「西条会」「八本松会」「志和会」「高屋会」が発足した。各地域研究会はその後7～8年間余り16回～18回に渡り地域の歴史文化を探求し初期の目的を果たした。現在はコロナ禍や高齢化が進み令和5年（2023）3月以降は休眠状態となっている。

12月例会及び忘年会のお知らせ

日時 12月13日（金）10:30～
場所 憩の料亭 白竜湖
（ホテルヴァンコーネル3階）

例会発表 「県史協大会反省会」

※当日の写真を見ながら振り返ります。

忘年会 （12/9まで申し込み可能です！）

参加費 2500円

※例会のみ参加の方は参加費不要

※忘年会への参加は要事前申込み

申込先 大森さん 090-9462-9861

編集を終えて

「創立40周年記念誌一歩みと回想」の編集委員長を務めた田坂次彦氏が「40年の壁は厚かった。今後は10年スパンで残していかないと完璧なものはない」と述べられていた。

今回はその後の10年間に纏めたものであるが多方面に渡る細かな資料や写真は個人が所有している場合が多い。活動実績や記録は郷土史ニュースや例会配布資料などを参考にしたが、多くは概要記録であり、また執筆者による観点の違いもあった。これからの10年後を考えると、当研究会が推進する諸活動の“記録を残す”地道な作業が大切であると思う。

次世代のリーダー育成、会員獲得

平成6年(2024)4月1日現在の会員数は115名である。会員の高齢化が年々進みここ数年は15名前後の退会者が続いている。

しかしながら、新入会員が毎年5名前後HP等を通して入会してくる。若い人は仕事を持たれているが電子機器の操作や知識は高齢者の比ではない。本会会員にも優れた見識や技術を備えた若い人がいる。市民への啓発活動は紙面と同時に電子機器を活用した発信が新会員獲得のカギになると思われる。

今後の諸活動推進や次回「60周年記念誌」編集に向けて本会の中心となり活動されることを祈念するばかりである。

会員には無料配布

会員の皆様へは無料配布します。例会や集會時、会員が手配りして渡します。遠方の方には郵送で届けたいと思います。

会員外で購入を希望される方は1,000円で販売します。郵送の場合はレターパック代(430円)を加え指定の口座に振込んでいただきます。

連絡先：國松宏史 携帯：090-7979-6234

メール：kunimatsu402@hi3.enjoy.ne.jp

教育界の巨星落ちる

石井 康隆



平成30年度総会 記念講演「春一番に咲く花物語」

堀越敬實先生が令和6年11月6日早朝に106歳でお亡くなりになりました。人生100年を全うされたとはいえ、目出度いようでもあります。悲しいことで御座います。謹んでお悔やみ申し上げます。

私は先生と「東広島郷土史研究会」の会員として一緒に色々指導を受けお世話になりました。大変有難く思っており、その御恩は忘れることは出来ません。先生は100歳過ぎても背を伸ばし、年寄りらしくない人でした。忘れられないのが「東広島郷土史研究会」などの看板、入り口の案内板や説明の題字を書いて頂きましたが、綺麗なことは勿論でしたが、生き生きと輝いた字で、私たちに励まし、活を入れられるような字でした。これは遺品として残り、今後も私たちを指導してくれるでしょう。

先生は東広島郷土史研究会の3代目の会長として、お世話をして下さり感謝しております。また郷土史研究会というよりも教育界の方でもお世話になりました。

私の息子が寺西小学校の低学年の時、校長先生で、前任の校長時代には学校の名を上げるために、夏休みに多く宿題を出され、子供は伸び伸び遊ぶことも出来ず、親が手伝うぐらだったもので、堀越校長に代わられ直訴に行き、事情を話し「夏休みの宿題を少なくしてやってください」とお願いしたら「分った、量を沢山叩き込んでも身に着かねば駄目だ。では2冊、何でもいい本を読ませて簡単な感想文を書かすことにする」と言って、本屋を呼んで、本を子供に好きなものを自由に2冊選ばせて、荷を軽くしてやって下さり、喜んだことがありました。

また郷土史研究会では巨樹・植物研究会という部会をつくられて部会長に就任されて、よく山野を連れて歩いていただきましたが、その時、山野の植物の名前を歩きながら指さされて「これは・・・だ」「あれは・・・だ」と言われるので吃驚して「先生良く知っておられますねえ」と言ったら「昔、あるとき、あの有名な植物学者の牧野富太郎先生がこられて、随行して歩いた時、歩きながら道端の山野植物の名前が機関銃のように口から出たのに吃驚して、「わしも負けてたまるか」と勉強したんだよと仰しかったことがありました。又その「巨樹・植物研究会」の副会長に林田和江さん(県の林務課OBで樹木に詳しい)を付けられ、よく2人で勉強をされていたのには感服したことがありました。

第5代目の榎野会長が病気で倒れられ、次の会長をどうするかというときに、先生に歴史の素人の私が指名を受け、「私は入会したばかりで、今から郷土史の勉強をしようと思って入会

したので、私のようなものが会長になったら、郷土史研究会が恥を掻きますし、私も歴史について空っぽですから大恥です」と言ったら（私が市会議員をしていたころで）「看板でいいんだ、仕事は皆でやるから」とあの笑顔で口説かれてしまいました。そして6年間務めさせて頂きましたが、よく助けて頂きました。あの笑顔に惚れてしまったようです。

本当に笑顔の観音さんだっただと思います。私も91歳になりました。負けないように人生100年時代に挑戦していきます。そして先生のように天寿を全うしたいと思っています。そちらに行きました時には、娑婆と同じように可愛がってやってください。よろしく願いいたします。安らかに眠りください。有難う御座いました。
合掌

【八本松探訪17】

八本松町のお寺 (2/3)

天野浩一郎

3. 多聞山西福寺 (八本松町吉川)

広島県道335号線の吉川小学校西側の四つ角を北に進むと、浄土真宗本願寺派西福寺があります。

西福寺では念仏道場として毎月定例の“お経会”、土曜日に小中学生を対象とした“土曜学校”、女性限定の“オアシス法話会”が開かれています。

・西福寺の創建

明治28年の「寺院取調」によると、応安元年(1368)頃、当村の荒井刑部輔実敏という武士が京からやってきた高僧・寿円の弟子となり、乗円と名乗ります。寿円が山中で光り輝く阿弥陀仏を発見し、その場所に乗円がお寺を建てました。そのお寺が西福寺で、創立当初は禅宗でした。

・槌山城番衆の菩提寺、経塚



経塚

槌山城の城番衆の菅田越中守、大森和泉守、尾和備後守が当時の住職宝蔵に帰依し、西福寺の檀徒になりました。天文21年(1552)槌山城

が落城した時、宝蔵は3人の供養を行い、莫大な数の小石に経文の一字を書き土中に埋めて経塚“一字一石経塚”を造りました。この経塚は本堂の西側に現存しています。

翌年、宝蔵は宗派を浄土真宗に改宗し、第一代(真宗開基)住職となりました。現住職の根来至暁氏は第二十代に当たり、西福寺は470年を超えて浄土真宗の法灯を守り続けています。

・宇都宮黙霖の墓

黙霖は、幕末に激しい尊王倒幕論者として活躍した僧侶で、吉田松陰に倒幕論を説いた人として有名です。当時、黙霖の実父、峻嶺は西福寺の13代住職を務めていました。

徳川幕府は黙霖を危険思想者として広島藩に黙霖追補の命令を出し、広島藩は実父の峻嶺を追求し尋問をしています。この時の峻嶺の口上書が西福寺に遺っていますが、追及には庄屋竹内氏の配慮もあり、難なくかわすことが出来たようです。維新後、黙霖が度々竹内家を訪れているのは、その謝意を含んでいたと思われます。

黙霖は明治30年(1897)に亡くなりましたが、遺骨は西福寺に納められ、境内に墓石があります。

(参考文献:「吉川村誌」他)

4. 名剣山寿福寺 (八本松町篠)

県道80号線を並滝寺方面に北上し、右手の大きな白い象が乗った門をくぐると、浄土真宗本願寺派寿福寺に着きます。(白い象は先々代住職の制作品)

縁起によると天平12年(740)に行基が開基したと伝えられていますが、長い間廃寺になっていたようです。

貞享4年(1687)篠村庄屋次兵衛らが発起し岩崎に堂を立て、寿福寺阿弥陀堂と唱えました。その後天明4年(1784)に現在地に移転し、禅宗を浄土真宗に改めます。

境内に寛政6年(1794)に造られた喚鐘や鐘楼などがあります。また、“墓仕舞い”した人達のお骨を納めた納骨堂があり、永代供養を行っています。

(参考文献:「川上村史」他)

5. 正覚山三光院城福寺 (八本松町正力)

正徳2年(1712)の寺社取調帳によると浄土宗で大内義興が建立し、永正17年(1520)に義興が寺領を確認した証文も残されているようです。(現在のお寺の屋敷は広くて一段と高い所にあり、周囲を見晴らす中世的な風情が残っています)

大内氏の滅亡後は自然に寺領も失われたようですが、天正13年(1585)僧住道(志和内村の石井氏で、後に正力村に出た石井孫兵衛の弟)が再興しました。

1600年代の中頃に廃寺となり阿弥陀堂と呼ばれていましたが、明治12年（1879）に復興しました。

境内には猿田彦を崇拝する庚申堂があります。以前は庚申の日に仲間が集まり、健康長寿・厄除け・家族の安全など求めて飲食を共にしたようです。

現在は無住ですが、毎月広島市の般舟寺住職が訪れ、門徒4軒と仏事を行っているようです。

この寺の背後にある小山から埴輪の破片や葺石が出土し、“浄福寺古墳”と呼ばれています。また、近くから石槨や銅鏡が出土した話も残っています。

（参考文献：「川上村史」他）



左：庚申堂 右：本堂

6. 東星山善正寺（八本松町正力）

令和3年に発掘調査された藤が迫城跡の東隣に浄土真宗本願寺派善正寺があります。

元禄3年（1690）向原町の法成寺の関係者が、篠・正力・米満各村の人達の要望により正力村金口谷に善証庵阿弥陀堂を建てたことが始まりです。

文政9年（1826）勤王僧の宇都宮黙霖が3歳の時、養子に貰われてきました。13歳の時離縁され長浜の母の家に帰るまでの約10年間はこの寺で生活しています。

明治9年（1876）境内を金口谷から現在地に移し、本堂と庫裡を立て替えました。大鐘は志和町の浄蓮寺にあったものです。

文政年間に当庵を中心に“御因小寄講”という講があり、信者から募った浄財を奉賀金として本願寺に納めていました。本願寺からの受取奥書が残っているようです。

（参考文献：「川上村史」他）

新春登山のお知らせ

日時 1月9日(木) 9:30～
場所 白鳥神社（白鳥神社駐車場から徒歩）
集合場所 古民家レストラン「山城」駐車場
（高屋町郷158-1）
※終了後、「山城」にて新年互礼会を行います。
申込み 福村さん 080-2912-6741まで

《新規会員紹介》

原 直誉(岡山市北区) 尾本 勝昭(広島市西区)
山本 春近(尾道市) 斎藤 弘樹(西条町)
松島 治毅(黒瀬町)

【新規会員募集中】

下記QRコードから活動を覗いてみてください。



Instagram



HP



Facebook

グループ研究会ご案内

第292回 古文書研究会

と き 12月17日(火) 13:30～
ところ 市役所北館 市民協働センター
テキスト 国郡志御用書上帳賀茂郡奥屋村⑩

石造物研究会

12月はお休みします。

第188回 四日市町並研究会

と き 12月9日(月) 13:30～
ところ 西条本町歴史広場 コジマヤ土蔵
内 容 「酒都西條」まとめ

昔の道探訪会（旧山城探訪会）

12月はお休みします。

原爆資料保存研究会

と き 12月19日(木) 14:30～
ところ 市役所北館 市民協働センター
内 容 被曝80周年記念事業の内容検討

12月の図書室開放

と き 12月20日(金) 13:00～15:00
ところ 高屋教育集会所

古文書研究会新規会員募集中

古文書を読むと新しい発見があります。一緒に読みませんか。初心者大歓迎。見学だけでもOK。お気軽にご参加ください。

ひがしひろしま郷土史研究会ニュース 第604号

令和6年（2024）12月5日発行
編集・発行 東広島郷土史研究会
会 長 赤木達男 TEL(082)423-7235
E-mail:akatatu@d4.dion.ne.jp
事務局長 國松宏史 TEL090-7979-6234
E-mail:kunimatsu402@hi3.enjoy.ne.jp
会報編集 間瀬 忍 TEL080-5756-2303
E-mail:mase shinobu@yahoo.co.jp